



「かお」

大俱利伽羅 × 燭台切光忠 成人向

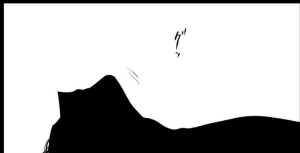
貌



「分如」 大田利雄 × 梶山明光 成人向

貌













元悪が
気付いたら
不気味に
思うだろう

きたない
みにくい
そいつ

生まれぬ
ように俺が

俺が気を付けて
いないと





君あの悪魔木に
言っっちゃって
くれないか

あの田舎刀には
言わないと
わからない！

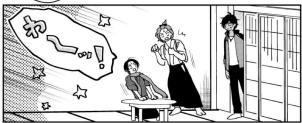
陸口は
本人の居ない
場所ですんだな



でもあんな
調子じゃあき

そうだね

いすれまた
不注意で
同じことが
起きそうだ



わ



は？俺が
いつ

知らないけど
そう言ってたよ
気にしてた

間違いかと
思ったけど
違ってたって…



光忠の語
だったようだが

そうだよあんな
みっちやんの手
振り払ったりするの
やめなよ







1



あんた何故
こいつを部屋に
招いた

いつから
こいつが
見えて
いたんだ



機されると
わからな
かったか

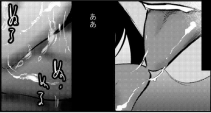
俺がそいつを
何度も殺して
守っていたのに！

あんたが
そうやって
懐しいから！

だって！



あゝ



ああ

ああこんな
はずじゃない

彼に
飲まれる





はっはっはっは

あんな
こうやって

ずっと俺の
顔めたかった
んだらう

そっだよ
僕は……

君にずっと
触りたくて



俺だけ
見てほしくて

はっはっは



いつだって
あんなの周りには
誰かが居て

隅だまりの
中に居て

俺じゃない
誰かの事も
気にかけていて

そんなやさしい
あんなの
うつくしさが好きで

そんなうつくしい
あんなの事を



俺だけを
見てくれないのは
あんなのくせに

暴きたいと
ずっと
思ってたー

あふあふ...

あふあふ...

あふあふ...
あふあふ...
あふあふ...

あふあふ...
あふあふ...

あふあふ...
あふあふ...
あふあふ...

あふあふ...
あふあふ...

あふあふ...
あふあふ...
あふあふ...

はは

はは

ははは...

あふあふ...

あふあふ...

あふあふ...



きみがそれに
契つく前から
ずっと！

影になる前から
きみの目が
憶えてきた

……
欲を



それを見て
僕もきみのこと
体に着みたいって
思ってたよ

こうして
納めてしまいた
いってずっとずっと
思ってた……

でもね



僕の事で君が
悩んでいるのが
嬉しかったんだ
……



ぼくも
おんなじ
なんだ





光忠

光忠

光忠

光忠

光忠

光忠

光忠

光忠

光忠



光忠

あんたが
どんな俺も
許さうと

こんなことだけを
したい訳じゃ
ないんだと後で
ちゃんと教えてやる



加藤ちゃん

こんな事
言ってもいいか
わからないけれど

光忠



きみの愛って
そんなかたち
してるんだね



きたない
みにくい
あいつ
あいつの
なまえ



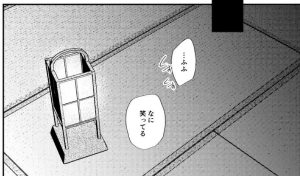
「そりゃ
おまえ



やっぱり僕のこと
きみが悩んでいるのが
うれしいよ

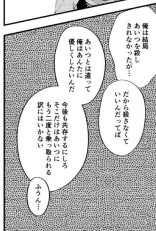


愛って
いうのか





本当はそう
したいんだろう
していいかい



俺は結局
あいつを救し
きれなかったが！

だから殺さなくて
いいんだってば

あいつとは違って
俺はあんたに
優しくしたいんだ

命後も共存するにしろ
そこだけはいいつに
もう二度と奪っ取られる
訳にはいかない

ようん…



だってきみ一番最初に
僕に触れたとき
真っ先に胸に
噛みついたじゃないか



